研　修　参　加　報　告　書

平成３０年　７月２４日

会　派　名　江政クラブ
会派代表者　河合　正猛

（参加者：伊藤　吉弘、藤岡　和俊、尾関　昭　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年　月　日	平成３０年７月１１日（水曜日）～７月１２日（木曜日）
研修時間	１３：３０～１７：３０、９：３０～１６：００
研修場所	早稲田大学　大隈記念講堂
研修内容	全国地方議会サミット２０１８　議会のチカラで日本創生 　少子高齢化、人口減少など、深刻な課題が自治体に突き付けられています。そのなかで、議決権をもつ議会は、魅力的な地域づくりを行うための重大な責任と豊かな可能性をもっています。サミットでは、早稲田大学大隈記念講堂に先進的な議会が集結し、政策で地域に貢献するための実践について議論します。「地方創生時代を議会がリードする」そんな新時代への大きな場面転換の場にし、これからの議会のあり方を全国に向けて発信します。 ７月１１日（水）１日目１３：００～１７：３０ 【基調講演】「地方議会から日本を変える」 北川正恭氏　早稲田大学名誉教授、元三重県知事 【特別講演】「地方創生の展望」 野田聖子氏　総務大臣→国会のため欠席、安田事務次官 【講演、ディスカッション】「真の地方創生とは何か」 片山善博氏　早稲田大学教授、元総務大臣／地方創生と地方議会の役割 大西一史氏　熊本市長／震災復興と地方創生 【課題整理】「地方創生時代に求められる議会力」 江藤俊昭氏　山梨学院大学教授 【パネルディスカッション】「議会力強化のための、議会事務局の変革」 小林宏子氏　東京都羽村市議会事務局長 清水克士氏　滋賀県大津市議会事務局次長 ▽進行：千葉茂明氏　月刊「ガバナンス」編集長

	７月１２日（木）２日目９：３０～１６：００ 【先進事例報告①】「地方創生をリードする議会へ」 目黒章三郎氏　福島県会津若松市議会議長／住民との対話から課題解決へ 子籠敏人氏　東京都あきる野市議会議長／広報改革から展開する議会改革 ビアンキ・アンソニー氏　愛知県犬山市議会議長／自由討議で委員会提言へ 川上文浩氏　岐阜県可児市議会議長／委員会代表質問と政策サイクル ▽進行：廣瀬克哉氏　法政大学教授 【先進事例報告②】「政策を実現する議会へ」 尾関大介氏　東京都議会議長／条例マニュフェストと議会改革 松本研氏　横浜市議会議長／議員提案条例による政策実現 【講演】「海外の議会制度から議会の多様性について考える」 中林美恵子氏　早稲田大学教授 【パネルディスカッション】「多様性のある議会に向けた実践と課題」 本間まさよ氏　東京都武蔵野市議会議長 岩永ひさか氏　東京都多摩市議会議長 白川静子氏　神奈川県茅ケ崎市議会議長 【提言、総括】「政策型選挙の実現に向けて」 北川正恭氏　早稲田大学名誉教授、元三重県知事ほか

研　修　参　加　報　告　書

①

年　月　日	平成３０年７月１１日（水曜日）～７月１２日（木曜日）
研修時間	１３：３０～１７：３０、９：３０～１６：００
研修場所	早稲田大学　大隈記念講堂
研修内容	全国地方議会サミット２０１８　議会のチカラで日本創生 　少子高齢化、人口減少など、深刻な課題が自治体に突き付けられています。そのなかで、議決権をもつ議会は、魅力的な地域づくりを行うための重大な責任と豊かな可能性をもっています。サミットでは、早稲田大学大隈記念講堂に先進的な議会が集結し、政策で地域に貢献するための実践について議論します。「地方創生時代を議会がリードする」そんな新時代への大きな場面転換の場にし、これからの議会のあり方を全国に向けて発信します。 ７月１１日（水）１日目１３：００～１７：３０ 【基調講演】「地方議会から日本を変える」 北川正恭氏　早稲田大学名誉教授、元三重県知事 【特別講演】「地方創生の展望」 野田聖子氏　総務大臣→国会のため欠席、安田事務次官 【講演、ディスカッション】「真の地方創生とは何か」 片山善博氏　早稲田大学教授、元総務大臣／地方創生と地方議会の役割 大西一史氏　熊本市長／震災復興と地方創生 【課題整理】「地方創生時代に求められる議会力」 江藤俊昭氏　山梨学院大学教授 【パネルディスカッション】「議会力強化のための、議会事務局の変革」 小林宏子氏　東京都羽村市議会事務局長 清水克士氏　滋賀県大津市議会事務局次長 ▽進行：千葉茂明氏　月刊「ガバナンス」編集長 ７月１２日（木）２日目９：３０～１６：００ 【先進事例報告①】「地方創生をリードする議会へ」 目黒章三郎氏　福島県会津若松市議会議長／住民との対話から課題解決へ 子籠敏人氏　東京都あきる野市議会議長／広報改革から展開する議

	会改革 ビアンキ・アンソニー氏　愛知県犬山市議会議長／自由討議で委員会提言へ 川上文浩氏　岐阜県可児市議会議長／委員会代表質問と政策サイクル ▽進行：廣瀬克哉氏　法政大学教授 【先進事例報告②】「政策を実現する議会へ」 尾関大介氏　東京都議会議長／条例マニュフェストと議会改革 松本研氏　横浜市議会議長／議員提案条例による政策実現 【講演】「海外の議会制度から議会の多様性について考える」 中林美恵子氏　早稲田大学教授 【パネルディスカッション】「多様性のある議会に向けた実践と課題」 本間まさよ氏　東京都武蔵野市議会議長 岩永ひさか氏　東京都多摩市議会議長 白川静子氏　神奈川県茅ケ崎市議会議長 【提言、総括】「政策型選挙の実現に向けて」 北川正恭氏　早稲田大学名誉教授、元三重県知事ほか

■目的

観光をテーマに研修し、江南市の地域づくり、まちづくりを進める方向について考えていきたい。また、参加の他の市町村議員の方々と交流を深め、情報交換をし、今後の参考にしたい。

■内容

７月１１日（水）１日目１３：００～１７：３０

【基調講演】「地方議会から日本を変える」

〇北川正恭氏　早稲田大学名誉教授、元三重県知事

議員の後ろには多くの有権者がいる。職員が議員を尊重しなければ、有権者を軽んじることになる。職員の改革も必要であった。マニュフェストは「お願いの選挙」から「約束の選挙」に変えた。詐欺フェスト、マネフェストなどと揶揄されることもあるが、昨年のマニュフェスト大賞の募集数2597件と最初の10倍になっている。しかし、議会不要論が7割を超える現状がある。そのためには議会改革が必要である。議員立法も議員提案で行う。他の議会の良いところはＴＴＰ（徹底的にパクる）する。日本橋コレットの6階に事務所がある。いつでも訪ねてきてほしい。

【特別講演】「地方創生の展望」

〇野田聖子氏　総務大臣→国会のため欠席、安田事務次官

地方では議員のなり手がいない。過去にも2回なり手がいないことがあった（その自治体の有権者が6人と36人）。集中専門型議会と多数参画型議会がある。国における地方創生の取り組みは、人口の社会増減対策であり、東京への人口流入対策をしなければいけないが、逆に10万人が12万人と増えた。第二次ベビーブーム（団塊ジュニア）の子どもが少ない。それはバブルが崩壊して、就職氷河期になり、給与が上がらず、結婚や子づくりに大きな影響を与えた。人口段階別市区町村の変動

(2015 →2040)のグラフで赤い文字の市は下位の人口区分へ移動する団体である。ロボットやＡｉ（人工知能）等による代替可能性が高い労働人口の割合は、日本では４９％になる。人間は人間でしかできないことに専念する。

【講演、ディスカッション】「真の地方創生とは何か」
○片山善博氏　早稲田大学教授、元総務大臣／地方創生と地方議会の役割
過疎地域の人口減少に歯止めをかけるという案は以前からあった。今の地方創生と全く同じ。今までやってきて、現在の状態がある。それをよく見直さないと、同じ結果になる。総合戦略作りが一番大事だろうと思っている。それには地域の結集が必要だと思う。コンサルが造った地方創生の案など、過去の資料をパソコンの変換機能で言葉を変えれば出来上がってしまう。議会が大きな役割をする可能性があった。総合戦略を議会の承認事項にしている議会はどのぐらいあるのか。プレミアム商品券で街が活性化したのか。人口が増えたのか。我が街の地方創生になったのか。どこをどう変えれば、自分たちの抱えている課題が解決できるのか。自分たちの地域一番ふさわしい事業を行うべきである。それを議会で話し合う必要がある。
○大西一史氏　熊本市長／震災復興と地方創生
熊本市議会災害対策会議設置要綱を制定した。災害時、市民とどう向き合っていくのか。執行機関とどう向き合っていくのか。全国の議会がノウハウを持ち寄り、話し合い、行動することが大切。要望、意見の集約。公助の限界。自助と共助が必要。まちづくりセンター→一年間で 1900 件！ごみ屋敷が市民の話し合いで解決した例もある。
○パネルディスカッション
首長は膨大な情報を持っている。それを市民と共有していくとよい。決まってから伝えるのではなく、作っていく過程で共有する必要がある。
知事と議会の関係が良くなかったが、災害で一つになった。災害対策本部を執行部だけでなく、議会の居場所がない。議会事務局長をメンバーにしておくのは良いアイデアだ。東日本大震災の時に、議員が手持ち無沙汰。いてもやることがない。議場がなくなった議会もある。避難所の一角でも議会はできる。緊急災害時には、先決処分や議会の簡略化は必要だが、しかし、本来先決処分はやるべきではない。平時では基本やらなかった。
議案の修正は当たり前。否決にはしてこなかったが、初めて否決した。その後、議会との関係が明るくなった。議会が独自に公聴会をするようになった。議会が否決をして一皮剥けた。

【課題整理】「地方創生時代に求められる議会力」
○江藤俊昭氏　山梨学院大学教授
国からの「地方創生」とは異なる地方（地方議会）からの地方創生＝住民自治！
地方政治の負の連鎖（投票率低下・無投票当選者率の増加、不信の増加、議会否定論の蔓延等）を脱却し、正の連鎖を作り出す。
議会改革の方向性は、前史では一問一答方式、対面式議場、委員会の公開等（住民の不信の蔓延）、本史では第１ステージ住民と歩む議会等の新たな議会運営（見え

る化、住民と多くの接点）、第２ステージ住民の福祉向上につなげる（住民の信頼づくりへ）
政策サイクルの創造→ＰＤＤＤＣＡサイクル（ＰＤＣＡサイクルは重要。しかし、地域経営においては重要なＤ（討議）とＤ（決定）が欠落）。そのため、地域経営においてはＰＤＤＤＣＡを）

【パネルディスカッション】「議会力強化のための、議会事務局の変革」
小林宏子氏　東京都羽村市議会事務局長
清水克士氏　滋賀県大津市議会事務局次長
▽進行：千葉茂明氏　月刊「ガバナンス」編集長
議員を支える議会事務局ではあるが、本来の事務局職員が行う必要のない仕事を削除していく（議員の私的な買い物、議員の私的なお金を銀行へおろしに行くなど）

７月１２日（木）２日目９：３０～１６：００
【先進事例報告①】「地方創生をリードする議会へ」
〇目黒章三郎氏　福島県会津若松市議会議長／住民との対話から課題解決へ
住民との対話が必要。年２回、１５地区で市民との意見交換会を実施。①住民との関係→住民と歩む議会に、②議員間の関係→議員間討議、③首町との関係→追認機関から政策競争へ。議会基本条例の制定。議会からの政策サイクルの４つの要素（住民を起点、政策提言、財政に関わる、総合計画に関わる）

〇子籠敏人氏　東京都あきる野市議会議長／広報改革から展開する議会改革
議会だよりから議会改革を行った。まず、手に取ってくれるよう、表紙には大変こだわっている。市役所にて市民アンケートも実施（いくつかの議会広報紙を並べて、どの議会だよりなら手に取って読みたいかをアンケート。その結果、１％程度しか手に取りたいと答えた人はいなかったため、一気に広報の改革が進んだ）
①手にとってももらう工夫→表紙のタイトル、写真、空気感
②詰め込みすぎない→読んでほしい量と読める量の差を理解する
③号ごとにターゲット（年代や男女など）を変える→新規読者を獲得

〇ビアンキ・アンソニー氏　愛知県犬山市議会議長／自由討議で委員会提言へ
一番大事なのは議員間討議。定例会の一般質問及び議案質疑後に１日全員協議会を設ける。一般質問及び上程議案の内容等を全員で協議し、議会としての意見をまとめる。それにより、市が議会の提案を受け入れるようになった（個人ではなかなか受け入れられない）。
市民フリースピーチ制度（市民が直接、議場で議員に向かって５分間自由に意見をいうことができる）

〇川上文浩氏　岐阜県可児市議会議長／委員会代表質問と政策サイクル
住民の福祉の向上につながることであれば、可児市議会は何でもやる。
一般質問からの委員会所管事務調査への追加→委員会代表質問を行っている。

ママさん議会、議会ＢＣＰ（防災訓練では議員も参加。議員は来賓ではない）
議会の力が地域の未来を創る。

〇パネルディスカッション
論点抽出表、モニター制度、市民との公聴会で、先乗りして地域の課題を聞く。
目黒議長や清水次長にすぐ来てもらう。ネットワークをフル活用する。
市民からの意見をすべて公開している。課題をピックアップしている。流れを作る。
常任委員会が各種団体と交流会。議長だから会える人がいる。トップと交流できる。
議長はクレーマー対策。全国地方議員サミットの出席も公務にすべき。
議員は個人プレイ。自分の名前を書いてもらえないと議員になれない。自然にはひとつになれない。機関としての議会にするには。
チーム議会。2:6:2 。先端的な 2 割か、足を引っ張る 2 割か、中間的な 6 割がどこを向いているのか。足を引っ張る 2 割の決め台詞は、俺は聞いてない。情報は公平に流す。
市民アンケート。どの表紙の本を手に取りたいか。データをとった。
公開でやることにより、反対のための反対ができなくなる。
議会運営委員会に常任委員会の委員長をいれる。

【先進事例報告②】「政策を実現する議会へ」
〇尾関大介氏　東京都議会議長／条例マニュフェストと議会改革
国より厳しい受動喫煙防止条例を作った。
〇松本研氏　横浜市議会議長／議員提案条例による政策実現
１年に十数本の議員提案条例を出した都市もあった。

【パネルディスカッション】「多様性のある議会に向けた実践と課題」
本間まさよ氏　東京都武蔵野市議会議長
岩永ひさか氏　東京都多摩市議会議長
白川静子氏　神奈川県茅ケ崎市議会議長
〇多様性と言っておきながら、なぜ女性しかいないのか不思議。女性が多く議員になるのは当たり前であり、珍しいことではない。

【提言、総括】「政策型選挙の実現に向けて」
北川正恭氏　早稲田大学名誉教授、元三重県知事ほか
これからも議会改革を進めて行ってほしい。

■所感
　とても実りある２日間であった。先進事例を聞くのもためになるが、それを聞いていかに江南市へ持ち帰り、江南市議会として取り入れて、実践していくかが課題である。オリジナルにこだわらず、他の議会がやっていて良いところはどんどん取り入れていくべきである。議員のための議会ではなく、市民の福祉向上のための議会であるはずなので、市民に開かれた議会づくりをしていかなければならない。